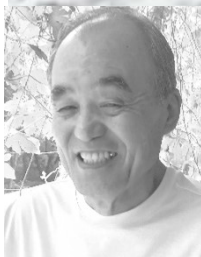


◆特集 命を軽んずる医療制度の改悪

年金では足りない入院費

取材…東京編集委員

奥山 信義



入院治療費41万円

私の元職場の先輩Oさん（80歳）は、今年2月、腹痛を訴え都内大学付属病院へ緊急搬送されました。診断は急性膵炎、胆石が原因で激しい痛みが発症したようです。

病院ではCTスキャン、X線検査、点滴、カテーテルなど一連の緊急処置が施され、回復するかに見えました。3月に入り、真菌（カビ）が血液に入り込む真菌感染症を発症し重症化しました。担当医からは事態が急変するかもしれないと告げられました。

その間、胆石で尿道が詰まり排尿を催すたびに激痛で動けない日々が続きます。妻や家族は毎日午後2時から8時まで病室で見守るしかありませんでした。治療は点滴で体力を維持しつつ、ステロイド剤も投与されました。私たちが見舞った時も排尿の辛さを目の当たりにしまし

た。国内の年間患者数は約8万人、重傷急性膵炎の発症メカニズムは完全には明らかになっておらず、治療も開発されていないそうです。

Oさんは3年前脳梗塞を患い、自宅リハビリ療養中の発症であり胆石の除去手術は体力回復を待たなければならぬ状態です。

5月11日、ようやく症状も落ち着きリハビリ病院へ転院しましたが、5月16日再び腹痛を訴え元の病院へ緊急搬送されました。胆石が動いたようで、緊急処置が行われ、一カ月治療入院となりました。

そして6月15日、ようやくリハビリ病院へ戻ることができました。

この間の大学付属病院入院治療費として、2月24日～28日は日7万7200円、3月は8万9730円、4月は9万8400円、5月1日～11日は4万5240円、5月16日～31日は4万1430円、6月1日～15



風呂の手すり設置

日は6万4750円、他にアメニティなど、合計41万6750円の入院治療費がかかったといえます。

リハビリ病院一カ月 23万円支払い

現在、リハビリ病院での体力回復、言語・手足の快復リハビリ療養中です。歩行器、階段の昇り降り訓練は頑張っていますが、一回の食事は2時間くらいかかる状態です。それでも9月退院予定日が決まりました。

医療費は高額療養費制度適用ですが、6月分内訳は①一般（自己負担限度額）5万7600円、②入院生活療養費（65歳以上）1万1100円、③入院時食事療養費（一般510円）4万5900円、④アメニティ（入浴、洗濯、クリーニングなど）9万1650円、⑤おむつ代2万6850円、合計23万3100円支払いとなりました。3カ月分となると約70万円必要となります。Oさんの年金は毎月11万円ほどです。とても足りませ

ん、預貯金の取り崩しでしのいでいるそうです。家族は退院のめどがたつたのでほっとしている、長期入院だとうしろようか不安だったと言っています。「攻めのリハビリで人間回復を」をモットーとした最新のリハビリ病院ですが、医療経費が高すぎるのには驚きです。

退院後は自宅での療養生活となりますが、家族の負担が大きくなります。

ケアマネジャー、作業療法士が自宅調査にきて段差やドア、風呂の手すり、バリアフリー化など設置指導をおこないます。日常的に自力での入浴、階段の昇り降りなど見守りが必要です。

高齢者世帯は年を重ねるごとに、医療・介護・福祉への依存度が高まります。実質賃金が上がらないと同様、2%の年金アップでは老後の生活設計は見通せません。

高額療養費の患者負担増は許せない

そして8月からの高額療養費の患者負担増は許せません。応能負担を求めるのであれば、保険料等で大企業・高所得者に広く負担を求め限度額を引き下げるべきです。政府が国民の命を軽んじているとしかいいようがありません。

（おくやま のぶよし）